

外科通論

佐藤進講義  
門人筆記

八



佐藤進講義  
門人筆記

# 外科通論

明治十一年二月  
十畝板權免許

佐藤尚中藏版



外科通論卷之八

佐藤進講義

門人筆記

第十篇

外傷ニ因セサル軟部ノ急性炎

第二十二章

○急性炎ノ病原總論○急性皮膚炎

羅斯性  
炎、癰癰

○粘膜急性炎○皮下蜂窩織

急性炎○溫膿瘡○筋肉急性炎○沕

乙膜急性炎

臍鞘及皮下  
粘液囊炎



通論中以上論說セシハ都テ外傷ナリ此篇ハ外傷ニ因セサル諸般ノ急性炎ヲ論說ス但シ體軀ノ外部ニ發シ或ハ内部ノ器械ニ生スル炎症モ外科ノ治術ヲ要スル者ハ即チ此ニ屬ス

病原抑外傷ニ因ラサル急性炎ノ病原ヲ區別スル左ノ如シ

〔イ〕器械的或ハ舍密的ニ軟部ヲ頻々反復シ刺戟スルニ由テ生ス但シ外傷ニ由テ生スル炎ハ組織ヲ刺戟スル一頓ナルニ由ヲ以テ差異アリトス次ニ二三ノ例ヲ掲テ通曉シ易カラシムヘシ

例之ハ人アリ小隘ナル靴ヲ穿ツニ由リ足ノ凸  
隆部ヲ壓迫刺戟スルトキハ一局所ニ輕易ノ炎  
ヲ生スヘシ若シ此刺戟ヲ反復スルトキハ炎勢  
更ニ増加シ且ツ蔓延ス又人アリ胡椒ヲ食シ舍  
密的ニ胃ヲ刺戟スルトキハ刺戟性ノ飲食ニ習  
慣セサル人ハ一時口中及ヒ胃ノ粘膜ニ血積及  
腫張ヲ生スヘシ若シ此刺戟ヲ頻々反復スル  
ハ則チ劇シキ胃炎ヲ續發スルヲアルカ如シ  
口冒寒ニ由テ生ス抑、冒寒ニ由テ生スル疾患極  
メテ多シ即チ急性加答兒、關節炎肺炎等之レナ



リ蓋シ冒寒スルトキハ何等ノ害物アリテ此ノ如キ諸般ノ疾患ヲ組織ニ起發スルヤ未タ詳明ナラス或ハ云フ頗ニ寒温ヲ變換スルニ因ルナリト然レモ試驗スルニ必スシモ如此キ疾患ヲ起發セス又局所冒寒ナル者アリ例之ハ人アリ窓ニ側面シテ坐シ寒凉ノ隙風ヲ面ニ受クルトキハ數時間ノ后顔神經ニ疼痛或ハ麻痺ヲ生ス蓋シ神經實質ノ分子ニ變異ヲ生シ此ノ如ク其作用ヲ廢セシ者ナルカ未タ詳カナラス其他冒寒スルトキハ鼻孔粘膜ニ加答兒ヲ生ス是レ諸

人ノ最モ罹リ易キ症ナリ又冒寒スルニ由テ胃  
ノ加答兒ヲ生スル者アリ或ハ筋肉ニ疼痛ヲ生  
スル者アリ右ノ諸各部ニ疾患ヲ生スルハ其所  
外氣ノ害物ニ由テ直チニ侵サル者ナルカ將  
タ其初ノ全身即血ヲ侵シテ后更ニ局處ヲ侵ス  
モノナルカ詳カナラスト雖足ヲ冷濕セシム  
ルニ由テ鼻粘膜ニ加答兒ヲ生スルニアルヲ以  
テ之ヲ見レハ先ツ全身ニ害ヲ蒙リ然ル后更ニ  
局處ヲ侵ス者ナルヘシ蓋シ體中局處ニ此ノ如  
キ害物ヲ媒妁シテ傳達スルハ神經ナルカ血液



ナルカ將他ノ流動體ナルカ曾テ學者ノ討論ス  
ル所ナリト雖未<sup>タ</sup>詳明ナラス恐クハ其害物ヲ媒  
妁メ體中局部ニ傳フルハ血液ナラン例之人ア  
リ汗體ヲ以テ俄<sup>カ</sup>ニ隙風ニ觸ルハ其處ニ舍  
密的ノ分析ヲ受テ新ニ一ノ毒物ヲ生シ之ヲ血  
液ニ取り更ニ之ヲ體中局部ニ致シ其處ニ炎ヲ  
生スル者ト看做スモ可ナリ總テ冒寒ニ由テ起  
ル局處炎ヲ<sup>レ</sup>ウマチス性炎ト名ク即チ古名ニメ  
今尚之ヲ襲用スト雖妥當ナラス<sup>按ルニ「レウマ」ハ希臘語ニメ</sup>  
原ト流<sup>レ</sup>或ハ河ノ義ナリ<sup>「レウマチス」ハ即</sup>  
此語ヲ引用セシ者ニメ體中ヲ輪流スル毒物ノ



義ナ 須ラク此語ヲ常ニ用ヒサルヲ良トス

〔ハ〕毒或ハ瘴氣<sup>ミアス</sup>ノ傳染ニ因ル軟部ノ急性炎アリ

夫レ人身體ハ其表面ニハ都テ表皮ナル者アリ

テ之ヲ被ヒ又粘膜上ニハ内皮ナル者アリテ之

ヲ被フカ故ニ炎ヲ起シ血液ヲ毒スル外来物ヲ

護衛スト雖此時トシテ全ク其害物ヲ防禦スル

ヲ能ハス皮膚或ハ粘膜ヲ透過シテ血中ニ侵入

スル毒物數多アリ即チ此ノ如キ物質ヲ毒ト名

ク例之ハ馬鼻瘡<sup>俗ニ内</sup>ノ潰瘍ヨリ生スル分泌

物或ハ「ミルツブランド」<sup>牛ノ</sup>發胞中ニアル分泌



物等之レナリ其他五官ヲ以テ之ヲ檢知スヘカ  
ラスシテ只此毒ニ由テ起發スル症狀ヲ見テ其  
毒物タルヲ察知スヘキ者アリ即チ之ノ毒ヲ「ミ  
アスメン」ト名ク「ミアス」ハ希臘語ニシテ原ト汚穢ノ義ナリ蓋シ此  
ノ如キ瘴氣ハ腐敗スル有機物ヨリ生スルナラ  
ン或ハ云其本體瓦斯ナリト又云微塵様ノ物質  
ナリト又微細ノ有機物ナリト學者多クハ微細  
ノ有機物ナルヲ信ス其毒ノ身體ヲ侵シ炎ヲ  
起スニ直達ナルヲアリ或ハ介達ナルヲアリテ  
一樣ナラス例之ハ腐膿或ハ屍毒ハ直チニ觸接



スル体部ニ劇シキ炎ヲ生ス即チ直達ナリ他ノ  
毒物ハ直チニ觸接スル部局ニ炎ヲ起サスレテ  
體中ニ侵入シ血液ト共ニ體中ヲ輪流シ然ル后  
體ノ一部或ハ各所ニ其毒ヲ致シ炎ヲ起スニア  
リ即チ介達トノ此ノ如キ毒物體軀中一定ノ器  
械ヲ侵スト多キヲ以テ之ヲ特異毒ト名ク蓋シ  
此如ク一定ノ器械或ハ組織ヲ侵ス毒物ハ如何  
ノ舍容的合成物ヨリ成ル者ナルカ詳カナラス  
只其作用ヲ外ニ見ハスヲ以テ僅ニ其害物タル  
ヲ知ルノミ此毒ノ一定器械ヲ侵ス一種特異ノ



作用ハ之ヲ苛劇ノ藥石ノ體中ニ入テ一定ノ器械ニ其機ヲ及ホフト一様ナリ例之ハ莖宕ハ虹彩實芟答利斯ハ臍亞片ハ腸ニ一定特異ノ機能麻ヲ起スカ如シ其他芫菁ヲ反復シ與フルトキハ腎炎ノ生シ水銀劑ヲ持久シ用フルトキハ口中粘膜或ハ唾腺ニ炎ヲ起スカ如シ繼令此諸劑ヲシテ直腸或ハ皮膚ヨリ血中ニ送ルモ其機誰一ナリ其他身體ヲ害スル一種ノ特異毒アルヲ數多ニ枚舉スヘカラス次ニ一例ヲ舉ケ他ヲ畧セントス今腐敗セシ膿汁ヲ取テ犬ノ血中ニ射入ス



ルキハ直<sup>チ</sup>ニ血ヲ毒シ然<sup>ル</sup>后腸炎胸膜炎心囊炎ヲ  
生スルヲ常トス然ルキハ射注セシ膿汁中ニ腸  
粘膜胸膜心囊ヲ侵ス一種特異ノ起炎體ヲ蓄フ  
ナリト云モ可ナラスヤ是ヲ以テ之ヲ見レハ傳  
染毒ハ曾テ人ノ思想セシヨリ起炎ノ原トナル  
ヲ多シ殊ニ外科ニ属スル疾病ニ於テ然リトス

### 〔甲〕急性皮膚炎

單易ノ急性皮膚炎<sup>發斑、小胞、結節、狀疹、</sup>ハ之ヲ急  
性發疹ト總稱シ即<sup>チ</sup>内科ニ属ス只羅斯性炎、癩、癰  
ハ皮膚ノ特發炎ニノ通常之ヲ外科ニ論説ス然<sup>ル</sup>

皮膚下蜂窩織、筋肉、骨膜及骨ノ炎症ヲ皮膚ニ及  
シ即皮膚炎ヲ繼發スルヲアリ宜ク區別スヘシ  
イ羅斯性炎ハ其所在殊ニ皮膚ノ乳嘴層トマル  
ヒキ層ニシテ局處ノ症狀ハ皮膚ノ浮腫疼痛潮  
紅及ヒ爾後表皮ノ鱗屑狀剝脫ナリ而シテ局處  
ノ疾患ナレトモ劇シキ熱症ヲ繼發スルヲアリ  
此病ノ經過ハ一日ヨリ三週或ハ四週ニ至ル此  
炎ヲ生スルハ皮膚處ヲ撰ハス加之粘膜ニモ亦  
之ヲ生ス然レハ特發性羅斯ハ殊ニ顔或ハ頭ニ  
發スルヲ多シトス諸多ノ病理學者ハ顔部羅斯



及ヒ頭部羅斯ヲ皮膚ノ急性發疹ト同一ナル者  
トス即チ急性全身病ニ繼發スル局處病ナリト  
ス然ルトキハ羅斯性炎ハ猩紅熱麻疹等ノ如ク  
外科ニ關スルヲ少ナキニ似タリ然レモ羅斯性  
炎ハ多ク外傷ヲ蒙ムルモノ其創圍ニ此症ヲ發  
シ即チ偶發ノ創病ナルヲ以テ主トシテ外科ニ  
之ヲ論スルヲ要ス蓋シ外傷羅斯ハ全身病ニ繼  
發スル皮膚炎ニアラス即チ傳染毒ニ由テ生ス  
ル皮膚ノ水脈毛細管炎ナリ毒ハ一種ノ傳染毒ニシテ直チニ之ヲ  
創口ヨリ其病理病狀ハ之ヲ偶發創病ノ條ニ讓  
得ルナリ

リ此ニシテ論セス

口瘡

血瘍

ハ一種ノ

皮膚炎ニシテ

其經過一定セ

ス其色赤紅ニシテ疼痛アリ而シテ其中央ニ細

小ノ白點ヲ顯ハス漸々周圍ニ増大シ通常タ

レル

普國ノ銀貨

ノ大サ

凡ソ一寸四方

ニ至ル時トシテ其大

サ増長セスシテ櫻實大ニ止マルヲアリ瘡ハ腫

大スルニ從テ疼痛増加ス知覺敏捷ノ人ハ發熱

ス第五日ニ至ルトキハ其中央ニアル白點ハ小

栓狀ヲ成シテ終ニ脫離ス手ヲ以テ輕々之ヲ其

周邊ヨリ壓スルハ血ヲ混シタル膿ヲ漏出ス其



後第三日ヨリ第四日ニ至ルトキハ化膿全ク止  
ミ而シテ紅腫モ從テ減シ終ニ中央ニ一點ノ小  
癰痕ヲ遺シテ治ス

癰ノ發生及其解剖的變化ヲ未タ詳カニ檢スル

ナント雖モ皮膚ノ一小部多クハ壞死ニ陷イ

ルヲ以テ終末ノ轉期トナスヘシ而シテ此壞死

部ハ炎症ノ最モ盛ナルハ中心ニメ此處ニハ細

脈管擴張シテ血液凝滯シ而シテ皮膚ノ組織ハ

炎症產物ニ由テ滲入セラレ其一部膿トナリ其

一部壞死トナリテ脫離ス癰ハ炎症ヲ廣ク蔓延

セシメスシテ其所在ヲ一小部ニ限リ遂ニ皮膚  
ノ一片壞死シテ栓狀ヲナシ脫離スル一種ノ經  
過ヲ具フルモノナリ

癰ノ原因ハ多クハ局處ニアリ殊ニ皮腺ノ分泌  
盛ナル所ニ生ス即チ會陰液下ノ如シ又脂腺ノ  
廣大ナル者或ハ面皰ニキビヲ生スル者ニ多發ス其他  
癰ヲ生シ易キ一種ノ體質ヲ具フルモノアリ所  
謂發癰素質ナリ此チアラビ、フルニクロシスノ如キ素質アル人體中各所  
ニ癰ヲ生スルハ其人漸々疲瘦シ且ツ疼痛アリ  
テ連夜眠リニ就キ難キモノナリ小兒或虛弱



ノ老人ハ之カ為ニ死ニ至ルイアリ又多血或ハ  
肥満ノ人之レニ罹リ易シ故ニ脂肪ニ富メル食  
物ヲ食スルトキハ癰ヲ生シ易シト信スルニ至  
ル

療法ハ單易ナリ病ノ初期ニ當リ氷嚢ヲ貼スル  
等ノ消炎法ニ由テ炎勢ヲ挫キ化膿ヲ制止スル  
ヲヲ試ムル者アレ氏効少ナシ只濕性ノ溫熱法  
ヲ施シ化膿ヲ促カスヲ以テ最モ良トス而シテ  
癰大ナラスレテ著レキ困難症ヲ發セサル片ハ  
癰ノ中央ヨリ栓子ノ離脱スルヲ俟テ輕ク指頭

ニテ之ヲ壓迫スルトキハ切開セスレテ膿ヲ排除シ得ヘシ若シ瘡大ニシテ疼痛甚シキトキハ化膿ヲ俟タス其中央ヲ長ク切割スヘシ又十字形ニ切割スルモ宜シ然ルトキハ血液創口ヨリ流出ス然ル后温療法ヲ貼スルトキハ諸症緩解化膿ノ機從テ速ナリ

瘡ヲ生シ易キ素質アル者ニハ機那劑、鐵劑等ヲ投シ其他全身温浴ヲ施コシ飲食ヲ節ニシ滋養ノ食物及葡萄酒ヲ與フヘシ

〔八〕癰及癰性炎 解剖的ニ之ヲ論スレハ癰ハ瘡



ノ重複シテ簇生スルモノト看做スヘシ然レモ  
之ヲ瘰癧ニ比スレハ其形大ニシテ且ツ割レク局  
處ニ蔓延スルノ性アリ然ルトキハ他ノ器械モ  
之カ為ニ多ク障碍ヲ得ルモノナリ癰ハ多クハ  
瘰癧ノ如ク元來單純ナル局處病ニ屬ス體中多ク  
ハ表皮ニ生ス殊ニ老人ニ多シ病初ニ當テ其發  
生及ヒ蔓延ノ狀態ハ瘰癧ニ於テ之ヲ見ルカ如シ  
然レトモ其表面ニ數多ノ白點ヲ相近接シテ生  
ス而シテ腫張漸々其周圍ニ増大シテ赤色ヲ帶  
ヒ疼痛劇甚ナリ其中央ニ當テ皮肉ノ一處壞死

ニ陷リ離脱スルトキハ周圍ニ増大スルノ勢大ニ減耗ス若シ數多ノ白點壞死ニ陷リ栓子ヲ成スモノ脱出スルトキハ腫ノ表面ニ小孔ヲ穿テ其狀篩ノ如シ時トシテ全ク化膿シ大ナル癰痕ヲ遺シテ治スルヲアリ癰ハ其性劇甚ニシテ且ツ廣ク蔓延スルトキニ於テモ其病勢ヲ皮層或ハ皮下蜂窩織ニ區畫シ他ノ組織ヲ侵スモノニアラス故ニ筋肉筋鞘ヲ壞死ニ陷キレ而シテ其部ノ脈管ヲ荒蕪スルカ如キハ稀有ノモノトナスヘシ若シ壞死部脫離ノ周圍ニ蔓延セントス



ル勢止ムトキハ壞死部ニ接スル健皮膚ヨリ肉  
 芽ヲ發生シテ治ニ就クモノナリ  
 通常背癰ノ經過ハ荏苒彌久疼痛甚シ時トシテ  
 患者之カ為ニ死ニ至ルイアリ顔部或ハ頭部ニ  
 癰ヲ生スルトキハ劇熱ヲ生シ而シテ膿毒症ヲ  
 起發スルイアリ即チ弟扶斯性ノ症狀ヲ見ハス  
 者ニシテ死ニ至ルイ少ナカラス  
 皇國ニ於テ面  
 性ノ小癰腫ヲ疔ト名クト雖必竟名ヲ異ニスル  
 ノミハ危險症ヲ發スルヲ以テ其稱ヲ別ニスル  
 ナル  
 然レモ頭或ハ唇ニ生スル癰ハ必ス惡症ヲ現ハ

レ危險ニ至ルト云ニアラス他ノ癰、如ク經過  
シ去リ只僅カニ瘢痕ヲ遺メ治スル者ナキニア  
ラス然レモ病初其豫后ノ吉凶ヲ定ムルハ大ニ  
難シ

顔ニ生スル癰疽ハ多クハ密ニ之ヲ檢スルトキ  
ハ其炎勢ノ頭骨内ニ及ホシ即チ腦症ヲ起發ス  
故ニ炎ノ劇易ト其蔓延スル大小ハ全身症ノ劇  
易ニ一致スルモノニ非ス或ハ其經過ノ急ニメ  
死ニ至ル者ヲ剖視スルニ毫モ腦ニ變異ヲ見ハ  
サハルモノアリ蓋シ此ニ如ク其性苛劇ニシテ



急性ナル癰疽ハ昆蟲ノ類馬鼻瘡或ハ、ミルツブ  
ランド<sup>病</sup>ヨリ産出スル毒物ニ抵觸シ、然后人體  
ニ飛來シ其毒ヲ傳接スルヨリ之ヲ血液中ニ吸  
收シ血液ノ腐敗ヲ生スルニ因スルナラン然レ  
モ臆説ニシテ確據ナシ  
療法ハ初ヨリ速カニ切割ヲ施コシテ病勢ノ蔓  
延セントスルヲ控制スルニアリ抑、之ヲ切割ス  
ルヤ十字形ニ全ク皮膚ヲ割開シ健康部ニ及フ  
ヘシ即チ真皮ヲ全ク切割シテ皮下蜂窩織中ニ  
至ル出血ハ甚タ微少ナリ是レ癰疽中ノ血管中

ニハ血液盡ク凝固スルニ由ナリ創中一ハコロ  
 オル水ニ醃シタル撒糸ヲ挿入シ二三時間毎ニ  
 之ヲ交換スヘシ而シテ其上ヨリ温養法ヲ施フ  
 ニ化膿ヲ促カスヘシ若シ癰疽頂部ニ生スル者  
 ハ温養法ニ堪カタシ且ツ腦ノ血積ヲ生スルコ  
 リ然ルトキハ石炭酸等ノ防腐藥ヲ貼シ或ハ  
 寒養法ヲ施スヘシ之ニ由テ大ニ疼痛ヲ減却ス  
 ヘシ顔ニ生スル惡性ノ癰疽療法モ亦之レト一  
 様ナリ若シ急ニ腦症ヲ生スルトキハ只頭上ニ  
 氷嚢ヲ貼スヘシ内服ニハ規尼涅或ハ酸類ノ清



涼藥ヲ投スヘシ

〔乙〕急性粘膜炎

粘膜ノ外傷炎ハ別ニ固有ノ異症ヲ生スルヲナ  
シト雖氏急性加答兒即チ急性加答兒性粘膜炎  
ハ固有ノ解剖的變化ヲ見ハス者ニシテ粘膜ニ  
劇シキ血積及ヒ浮腫性腫張ヲ生シ其初メ血水  
様ニシテ其后粘性ニシテ且ツ膿様ノモノヲ分  
泌ス殊ニ此症ハ冒寒或ハ傳染毒ニ由テ生スル  
モノナリ所謂粘液漏<sup>グレンネー</sup>ハ加答兒ノ高度ニ達セシ  
者ニシテ即チ純粹ノ膿ヲ多量ニ分泌スルモノ

ナリ總テ加答兒ニ罹ル粘膜ハ其經過彌久ニシ  
 テ且ツ其症劇甚ナル者ト雖モ粘膜ノ實質ヲ浸  
 淫スルモノニアラス故ニ粘膜ノ表面ハ只血積  
 ヲ顯ハシテ腫起シ且ツ微シク肥厚ス時トシテ  
 粘膜ノ表面ニ著シク内皮ヲ離剥シ而シテ其一  
 小部ニ粘膜ノ實質ヲ損失スルヲアリ加答兒然性潰瘍  
 レ氏甚タ稀ナリ輒近ノ論說ニ據レハ加答兒ニ  
 於テハ只粘膜ノ表面ヨリ内皮胞ヲ頻リニ離剥  
 シ而シテ其表面ニ無數ノ細胞ヲ顯出ス是則チ  
 膿球ナリ但シ粘膜ノ結組織ハ損害ニ罹ルヲナ



レト云フ蓋シ此ノ如キ細胞ヲレテ他ノ組織ノ  
 炎所ニ生スル白血球トナスモノアリ或ハ一類  
 ノ内皮胞中更ニ數顆ノ細胞ヲ孕産シ之ヲ産スル者即

千母胞  
 ト云 此胞膜終

ニ破裂スルトキ

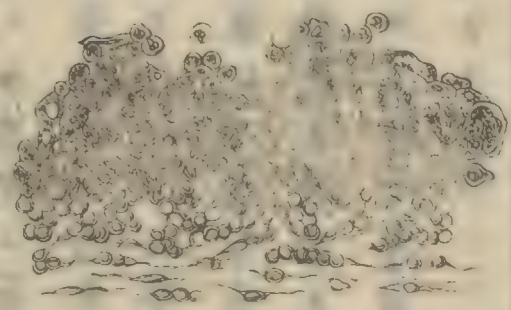
ハ則チ母胞消滅

レテ數胞ヲ産出

スルニ由ル者ト

ナス者アリレマ

クレ氏「ブル氏及



第二十六圖

リンバノライシ氏  
 加答兒ニ准ル結膜  
 ノ内皮層中ニ發見  
 セレ母胞ヲ示ス  
 此大サ真物ニ比  
 スレハ凡ソ四百倍

リントフ、イシ氏ハ加答児ニ罹ル粘膜ノ内皮  
胞中數顆ヲ孕ミシ大ナル母胞ヲ發見セリ  
右ノ諸説ヲ以テ之ヲ見レハ加答児ニ由テ生ス  
ル膿球ハ粘膜ノ内皮胞ヨリ孕出スル者ナルカ  
或ハ結組織胞ヨリ孕出スル者カ將タ血管ヨリ  
漏出スル白血球ナルカ方今學者ノ疑團中ニア  
リテ未タ全ク詳明ナラス  
右ニ論スル加答児性炎ノ外ニ粘膜ニハ尚「コ  
ー」性炎及ヒ「ヂ」性炎ノ二種症ヲ生スル  
モノナリ



コロップ性炎ト名クルモノハ粘膜炎ニ由テ其  
表面ニ炎症性產物即チ纖維素ヲ產出シ此產物終  
ニ化シテ一層ノ膜トナリ粘膜ノ表面ニ襯着ス  
ルヲ云即チ義膜ナリ此膜時日ヲ經ルニ從ヒ溶  
解シテ粘液ト變シ或ハ膿ト化シ或ハ膜下ニ膿  
ヲ產出即チ粘膜ヨリ產出スシテ粘膜ヨリ離剥セラル、  
ニアリ然レトモ粘膜及ヒ其内皮ニ損害ヲ受ケ  
ザプロテリハ其症狀「コロップ」ニ粗同シト雖自  
ラ異ナリ「ザプロテリ」ニアリテハ纖維層膜ハ粘

膜ト密ニ固着スルノミナラス義膜及ヒ熱中  
ニ滲入スル血水凝固シ之カ為ニ血液ノ運行ヲ  
障碍シ是ヨリ患部ニ壊死ヲ生ス故ニチブテリ  
ハ局部粘部膜ヲ荒蕪シ且ツ壊死ニ陷イラシムル  
ヲ以テ主症トナス其原トナル者ハ蓋シ外来ノ  
微細ノ有機物ナラン然レモ此ノ如キ有機物ハ  
チブテリニ偶發スル者ナルカ未タ疑團ヲ免  
カレス

全身症ハ熱ヲ以テ劇症トナスコロブ性炎ニ  
アツテハ炎勢ヲ微細ノ氣管枝或ハ肺胞ニ及ホ

シ所謂コロップ性肺炎トナルトキハ熱症劇甚  
 ナリ然レトモダフテリニアリテハ動モスレ  
 ハ膿毒症ヲ見ハシ易ク且ツ其性猖獗ナリ咽喉  
 及ヒ氣管ノ粘膜ハ時トシテ右二種ノ疾患ヲ脱  
 ル、フアリ結膜ハダフテリニ由テ侵サル、  
 フ鮮ナカラス然レ氏コロフニ罹ル、少ナリ  
 又腸及ヒ生殖器ノ粘膜ハ右二種ノ疾患ニ罹ル  
 フ少ナリ之ニ反シテ有毒性粘液漏麻疾ニ罹リ易  
 シ

丙 急性皮下蜂窩織炎



急性皮下蜂窩織炎ヲ名ケテ布列婁蒙性炎ト云  
ヒ或ハ之ヲ假性羅斯ト稱ス其源由多クハ詳明  
ナラス時トシテ劇シキ冒寒ニ起因スルアリ  
或ハ傳染毒ニ由テ此ノ如キ炎症病ヲ健全ナル  
真皮ニ生スルアルヲ信スル者アルヘシト雖  
必竟臆說ニ過キス然レモ既ニ論セルカ如ク挫  
傷挫創ニ偶發スル外来ノ傳染毒ニ由テ此ノ如  
キ蔓延性急性炎ヲ偶發スル少ナカラス  
皮下蜂窩織ノ特發炎ハ竊モ四肢ニ多發スル症  
ナリ而シテ筋鞘下ヨリ其上部ニ多發ス殊ニ指

或ハ手ニ生スルヲ多シ即チ此所ニ生スルヲ別

稱シテ癰疽ト云バオリチウム原名ハナリチウムハ不正ノ語

ナハ炎ノ又之ヲ區別シテ深在ノ者ヲ皮下癰疽ハナリチウム

トシ淺在シテハノ周圍或ハハ床ニ生スルモノ

ヲハ甲下癰疽トナス

此ニハ只前臂ニ生スル皮下蜂窩織炎ノ症狀ノ

ミヲ掲テ一例ニ供スヘシ最初ハ皮膚ニ紅腫熱

痛ヲ生シ而シテ常ニ熱發シ皮膚ハ微シク浮腫

シテ緊張ス炎ヲ生スル部局一定セス皮下蜂窩

織ニアルカ筋鞘下ニアルカ將タ骨膜炎カ成ハ

骨炎ナルカ第一日ニハ其炎處ヲ識別スルヲ大ニ難キモノナリ若シ浮腫疼痛發熱益劇シク而シテ皮膚ノ潮紅微ナル者ニアリテハ炎機深所ニアリテ既ニ化膿ニ陷キリシヲ疑察スヘシ炎ヲ皮下蜂窩織ニ生スルモノハ多クハ化膿ニ至リ纔カ數日ノ間ニ皮膚ノ一局部甚タシク赤色ヲ生シ著シク波動ヲ覺フルニ至ルヘシ一局處自然ニ破開シテ膿膿ヲ漏出スルヲアリ或ハ切開シテ之ヲ泄スヲアリ若シ掌或ハ蹠ノ如キ表皮及ヒ皮膚ノ厚キ所ニ炎ヲ生スルトキハ紅



色ヲ外ニ表ハスヲ甚タ微ナリ若シ疼痛劇シク  
患者自ラ皮膚緊張シテ搏動アルヲ覺フトキハ  
即チ既ニ膿腫スルノ兆トナスル  
此ノ如キ急性皮下蜂窩織炎ニ罹ル局部ハ多ク  
ハ皮膚ノ一片壞死ニ陥キルモノナリ是レ蓋シ  
組織ノ緊張甚シキニヨリテ血行ヲ妨ケ給養ヲ  
失フニ因スルナラン而シテ筋鞘モ亦共ニ生機  
ヲ失シ其質半ハ頽敗ス殊ニ頭蓋ニ於テ經驗ス  
ル症ナリ

解剖的ニ精シク之ヲ檢スルトキハ著シク發見

スヘキ症ヲ毛細管擴張及ヒ滲出物ニ由テ患部  
ノ組織膨張スルノ二症トナス即チ多量ノ間腔  
組織中ニ滲入  
由ナリ是レ即チ病初ニ患部浮腫様ニ腫起シ皮  
膚紅ヲ潮シテ疼痛ヲ生スル所以ナリ若シ諸症  
増進スルトキハ炎部ノ結組織及ヒ脂肪組織中  
ニ多量ノ細胞ヲ充填ス然ルトキハ皮膚從テ緊  
張シ而シテ患部ノ各所ニ於テ血管中ニ血液凝  
滯ス殊ニ毛細管及ヒ靜脈中ニ於テ然リトス然  
ルトキハ各所ニ血液ノ運行ヲ廢止ス若シ此症  
ヲ生スルトキハ患部ニ先ツ暗青赤色ヲ顯ハシ

然后赤血球脱色スルニ由テ其色變シテ灰白トナルナリ血液ノ凝滯患部ニ蔓延スルトキハ患部ノ組織壞死ニ陥キル然レモ多クハ細胞増多スルニ從ヒ細胞間ノ纖維質消却シテ其一部細微ノ腐片トナリ或ハ其一部膠質ニ變シ遂ニ全ク溶解シテ膿様物ニ變化スルヲ常トス

若シ右ノ諸症増進スルトキハ患部全ク化膿ニ至ル即チ細胞及ヒ胞間物質ニ由テ滲入セラレタル組織ハ溶崩シテ流動體トナリ其中ニ腐敗セル蜂窩織ノ細片ヲ混ス若シ此機皮下蜂窩織



ニ蔓延スルトキハ然ニ血管及細胞ニ富メル部  
ニ於テハ其組織ノ頽敗スルヲ他所ヨリ速カナ  
リ即チ組織膿様ニ變化シ然ル后内部ヨリ漸々  
外部ニ向ツテ皮層ヲ侵蝕シ終ニ其一所破開メ  
膿ヲ外ニ漏出ス

此ノ如キ膿窩ヲ包圍スル所ノ組織ハ多量ノ細  
胞ニ由テ滲ハセラレ而シテ細微ノ血管絡繹ス  
故ニ膿ヲ包圍スル組織ノ裡面ハ肉芽面ト其性  
質ヲ同シラス若シ膿汁漏出スルトキハ膿ヲ包  
圍スル肉芽面互ニ相合着シ多クハ速ニ癒着ス

ル者ナリ然レモ此ノ如キ患部ノ皮膚ハ炎性産  
物ニ由テ滲入セラル、カ故ニ彌久日ヲ經ルト  
雖モ他ノ皮膚ヨリ固クシテ且ツ堅韌ナリ終ニ  
ハ滲入セル細胞ノ顔敗ト吸收トニ由テ舊ニ復  
スル者ナリ

此ノ如キ皮下蜂窩織炎ノ作用ハ縱令病勢一局  
所ニ止マルモ又廣ク蔓延スルモ其機ニ至リテ  
ハ同一ナリ然レモ實際上ニ之ヲ論スルトキハ  
膿汁滲出ト膿腫ハ自ラ區別セサルヘカラス夫  
レ膿汁滲出トハ即チ膿汁廣ク組織内ニ滲出ス

夕  
 集  
 通  
 論  
 腎  
 經  
 之  
 一

ル者ニシテ敢テ説

明ヲ要セス膿腫ト 第二十七圖

ハ一局部ニ炎ヲ生

レ而シテ其所ニ區

域ヲ劃スル一膿窩

ヲ造レル者ヲ稱ス

但レ急性炎ニ由テ

速カニ生セル者ヲ

溫膿腫ト名ケ之ニ

反レテ慢性炎ニ由

皮膚結組織

中ニ膿球ノ浸淫

セルモノ而シテ其

中心ニ膿球甚

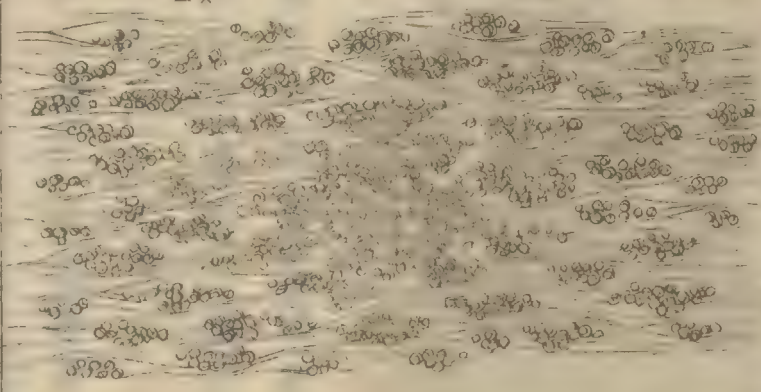
シク集積スルモ

ノハ將ニ膿腫ニ

化セントスルヲ

示ス  
莫物ニ比ス  
 ハ三五五

拾十



川  
 野  
 氏  
 著  
 腎  
 經  
 之  
 一



テ生セル者ヲ寒膿腫ト名ク

圖ニ示スカ如ク細胞漸々組織中ニ集積スルキ  
ハ其中間ニ在ル組織ハ次第ニ消却シ遂ニ炎部  
ノ中心ニ於テ細胞集積シテ簇々群ヲ成セル者  
混同シテ一膿窩ト成ルナリ往時ハ此ノ如キ集  
積スル細胞ヲシテ之ヲ結組織胞ヨリ孕出スル  
者ト信シテ疑ハサリキ然ルニ輒近學者ノ所見  
ニ據レハ此ノ如ク局處ニ產出スル細胞ハ血管  
ヨリ漏出スル白血球ナリトス  
皮下蜂窩織中ニ多量含有スル脂肪ハ急性炎ニ

罹ルトキハ多クハ消

滅ス即チ漸々集積ス

ル細胞ニ由テ壓迫セ

ラル、ニ由テ化シテ

流動體トナルナリ然

ルトキハ時トシテ点

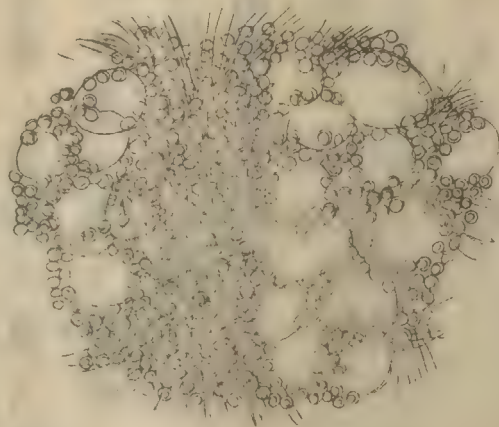
滴ノ狀ヲ成シテ膿ニ

混スルヲ發見スルヲ

アリ次圖ハ即チ脂肪

組織ノ炎ニ罹ル者ヲ

第二十八圖



皮下脂肪組織中ニ  
膿球ノ浸滲ヲ示ス  
ハ眞物ニ比スレ  
ハ二百五十倍

顯微鏡下ニ照ス者ナリ

既ニ論スルカ如ク皮下蜂窩織ニ炎ヲ生スルト  
キハ其所ノ脈管廣張シ從ツテ細胞組織間ニ滲  
入シ患部ニ腫起ヲ生シ是レヨリ諸症増進スル  
トキハ脈管中ニ血液凝滯シ終ニ血行ヲ廢止シ  
其一部位化膿或ハ壞死ニ陷キルヘシ然ルトキハ  
壞死部ノ周圍ニ存スル血管ハ其關聯之ヲ他ノ  
壞死部ノ周圍ニ絡繹スル肉芽中ノ血管ト一樣  
ナリ即チ次圖ニ示スカ如ク血管盡ク係蹄狀ヲ  
成シテ膿窩ノ周圍ニ絡繹ス蓋シ膿窩ヲ包圍ス



第二十九圖

犬舌ニ生ヤレ膿腫ノ腎ニ絡澤スル血管  
 ノ状態ヲ示ス莫物ハ二十五倍スレ



ル肉芽面ニハ他ノ肉芽面ニ於ケルカ如ク水脈  
管ヲ存セス或ハ炎症產物ニ由テ閉塞セラレ、  
カ故ニ腐敗物ヲ容易ニ吸收シ膿毒症ヲ起コス  
モノニアラス若シ炎症產物ニ由テ閉塞セラル  
、ト十全ナラス或ハ靜脈壁ヨリ微シク吸收セ  
ラル、トキハ時トシテ膿毒熱ヲ發スルヲアリ  
故ニ熱ノ強弱及長短ハ吸收セラル、膿ノ性質  
ト分量ニ係ハルモノナリ

皮下蜂窩織炎ノ豫后ハ患部ノ部位其廣隘及ヒ  
源由等ニ由テ甚々諸般ナルモアトリ例之ハ毒

傷ニ由テ生スル皮下蜂窩織炎ハ治癒ノ期望少  
ナシ又膿腔或ハ骨髓腔等ノ深所ニ膿ヲ蓄在ス  
ルモノハ其經過甚タ慢徐ナリ之ニ反シテ指或  
ハ手ニ生スル者ハ其經過短ナリ又化膿ノ機速  
カナルト炎部ニ區域ヲ劃シテ蔓延セサル者  
如キハ豫后益々良ナリトス

療法可及的炎機ヲ未盛ニ抑制スルニアリ即チ  
洩乙性及ヒ成形的滲入物ヲ病初ニ吸收セシム  
ルヲ主トス其方法諸般ナリ先ツ患所ニ水銀  
軟膏ヲ貼シ患者ヲ床上ニ臥セシメ而シテ患肢



ニ濕布ヲ纏絡スヘシ若クハ毬布ヲ貼スルモ効  
アリ其他病初ニ當リテ患部ニ寒瘃法氷囊ヲ施コ  
スモ宜シ又絆創膏或ハ繃帶ヲ纏絡シテ患所ニ  
壓迫ヲ與ヘ吸收ヲ催進セシメテ効アリ然レ壓  
迫之カ為ニ患部ニ疼痛ヲ生シ或ハ壓迫過度ナル  
ニ由テ局處ニ壞死ヲ生スルノ恐アルヲ以テ用  
ユルヲ少ナシ若シ右ノ方法効ナク諸症増進ス  
ルキハ反テ化膿ヲ促カスノ法ヲ施コスヘシ即  
チ溫晏法ヲ主トシ施コスヘシ若シ患部ニ波動  
ヲ覺ユルトキハ破開ヲ自然ニ任セスシテ皮膏

ヲ切開シテ膿ヲ漏スヘシ若シ化膿廣ク皮下ニ  
蔓延スルトキハ皮膚ヲ所々ニ切開シテ膿ヲ流  
泄シ易カラシムヘシ切開後患所ヲ清潔ニシ治  
期ヲ促カスニハ患肢ニ溫浴ヲ施コスヲ良トス  
皮下蜂窩織ノ膿腫ヲ切開スルハ其術易シト雖  
膿腫深處ニアルトキハ謹心シテ切開ヲ施スヘ  
シ然ラサルトキハ貴要ノ器械大ナル脈管中經等ヲ損傷  
シ之カ為ニ患者ヲシテ危險ニ陷キラシムヘシ  
頸或ハ骨盤腔或ハ腹壁等ノ深處ニ膿ヲ蓄在ス  
ルキハ鑑定容易ナラス宜シク密ニ反復シテ精

診セサル可カラス此ノ如キ膿腫ヲ切開スルニ  
ハ刀ヲ一頓ニ膿窩ニ切入スルヲ勿レ徐々ニ刀  
ヲ進メ軟部ヲ切割シテ波動著シキ膿窩ノ近部  
ニ至ルヘシ然ル後溝探針ヲ以テ膿窩中ニ穿入  
シ此穿孔ヨリ更ニ彈丸鉗ヲ挿入シ穿孔ヲ廣ゲ  
シ然ルトキハ深處ノ脈管ヲ傷ツケ出血ヲ招  
クノ憂ナシ若シ膿汁腐敗シテ膿腫中ニ瓦斯ヲ  
蓄ヘ打診ニ由テ鼓音ヲ發スルトキハ則チ切開  
シテ膿ヲ泄スヘシ然后「ホロオル」水ニテ腫中ヲ  
射洗スルヲ良トス



丁 急性筋炎

筋實質ノ持發炎ハ稀有ノ症ニ属ス此症ヲ生スル所ハ舌筋大腰筋胸筋臀筋其他大腿或ハ腓腸ニ發ス時トシテ分解スルヲアリト雖其轉期ハ多クハ膿腫ヲ生スルヲ常トス轉移性筋膿腫ハ多クハ馬鼻瘡ノ中毒創ヨリ生スルモノナリ筋膿腫ノ症狀ハ深處ニ生スル他部ノ膿腫ト異ナルヲナシ其發生及破開スル時間ノ長短ハ炎部ノ大小ニ由テ同シカラス然レモ筋ニ膿腫ヲ生スルトキハ筋ニ收縮ヲ起スヲ以テ他部ニ生ス

ル者ト區別ス例之ハ大腰筋炎ニ罹ルトキ患者  
大腿ヲ腹部ニ向ケテ舉上スルカ如シ若シ著シ  
キ波動ヲ生スルトキハ速カニ切開シテ膿ヲ泄  
スヘシ

〔戊〕腱鞘及皮下粘液囊急性炎

腱膜ハ即チ口ナキ沕ニ膜様ノ一囊ナリ指或ハ  
足ノ腱ヲ被包ス抑々急性腱鞘炎ハ多クハ挫傷  
ニ由テ生ス特發スルハ稀ナリ總テ體中炎ニ罹  
ル沕乙膜ハ纖維素ニ富メル多量ノ血水ヲ滲出  
スルモノナリ而レテ腱ト腱鞘トノ間ニ生スル

細胞ヨリ結構セラル、纖維性ノ假膜ハ腱鞘ト  
腱ヲ癒着セシムルヲアリ或ハ復ヒ溶解スルヲ  
アリ或ハ時トシテ腱鞘化膿ニ陥斗リ遂ニ腱ヲ  
シテ壊死ニ至ラシムルヲアリ局處ニ疼痛ヲ生  
レ且ツ微シク腫起スルハ即チ腱鞘炎ニシテ又  
時トシテ患部ニ手或ハ耳ヲ貼シ然後試ニ患者  
ノ指ヲ屈伸セシムルドキハ摩擦音ヲ知覺スヘ  
レ是ハ即チ腱鞘ノ裡面又腱ノ表面ニ纖維素ヲ  
產生シ其粗糙面互ニ相摩擦スルニ由テ生ス  
ル炎ニ之ヲ見  
其他原因詳明ナラサル腱鞘ノ急性

膜



炎アリ其初ノ急性皮下蜂窩織炎ノ症状ヲ成ス  
モノニシテ多クハ化膿ニ至リ易シ而シテ皮下  
蜂窩織モ共ニ炎ニ罹リ易シ而シテ患肢腫脹シ  
近傍ノ指節及腕節ニモ炎ヲ傳フ腱鞘ハ關節膜  
ノ如ク急性炎ニ罹ルトキハ時トシテ滲出物ヲ  
産出シテ近圍ノ組織ニ滲滯ス總テ療法宜シキ  
ヲ得ルトキハ化膿セスシテ治ス若シ化膿一小  
部ニ區域ヲ劃シテ止マルトキハ漸々分解スル  
イアリ然レモ此ノ如キ症ニアリテハ永ク關節  
ニ強直ヲ殘スモノナリ若シ化膿廣ク蔓延スル

トキハ臃ハ壞死ニ陥キリ時日ヲ經ルトキハ其  
質ヲ變シテ灰白トナリ膿腫口ヨリ牽出セラル  
、ニ至ル指ノ臃贅炎ニ數若シ炎勢熄シテ化膿  
ニ至ラサルトキハ一指或ハ數指ニ生涯強直ヲ  
殘スーアリ殊ニ關節ヲ侵ストキニ於テ然リ臃  
贅ノ化膿性急性炎ニアリテハ時トシテ其初メ  
發熱著シカラスト雖劇シキ症ニアリテハ病初  
寒戰ヲ發ス若シ炎勢及化膿廣ク蔓延スルトキ  
ハ發熱益々經久消散セス而シテ弛張ノ性ヲ具  
フ然ルトキハ患者速カニ疲勞ス曾テ強壯ノ人

ト雖モ三四週ノ間ニ著シク羸瘦ス殊ニ發熱ニ  
間歇アリテ且ツ惡寒ヲ合併スル者ハ豫后良ナ  
ラス

療法患部ヲ安静ニ保ツヲ急務トス即チ夾板ヲ  
貼シ輕ク繃帶ヲ施コシ而シテ皮膚ニ凍下幾  
ヲ塗抹スヘシ若シ効ナキトキハ發泡膏ヲ貼ス  
ルモ宜シ右ノ諸方ニ由テ多クハ諸症ニ解ムル  
モノナリ又病初ヨリ症狀劇甚ナル者ハ水銀  
軟膏ヲ塗抹シ水囊ヲ貼スヘシ此方ヲ數日試用  
セシ後ハ溫浴法溫浴ヲ施シテ効アルコトアリ若



シ膿腫ノ生スルトキハ速カニ患部ノ切開シテ  
膿ヲ泄スルニ膿ノ排泄良ナラサル者ハ膿ヲ  
皮膚ヲ切開シ對口創ヲ造リテ護謨ノ軟管ヲ  
貫通シテ膿ノ流泄ニ便ナラシムヘシ時ニテ  
膿腫口ヨリ凸出スル肉芽ニテ膿ノ流出ヲ妨ク  
ルヲアレハナリ若シ化膿ノ機荏苒減少セスメ  
患肢ノ腫起亦依然トシテ關節ノ軟骨腕關節ヲ  
著シク侵シ屈伸ニ應シテ摩軋音ヲ收メ患者  
疲勞スル如キ者ニアリテハ治癒ノ期望ナキノ  
ミナラス切斷シテ一肢ヲ去ルニアラサレハ生

ヲ救フ方ナキモノナリ

皮下粘液囊急性炎ハ腱鞘炎ヨリ其性猖獗ナラス而シテ膝蓋前囊或ハ肘筋ニ最モ多發スル者アリ挫撲ニ繼發スルヲアリ或ハ獨發スルヲアリ囊中纖維ニ富メル血水ヲ充實シテ疼痛ヲ起發ス而シテ皮膚ニ紅ヲ潮シ皮下蜂窩織モ亦共ニ炎ニ罹ル然レモ患者病初ヨリ治療ニ就クトキハ化膿ニ至ルヲ稀ナリ

〔療法〕水銀膏或ハ沃陳丁幾ヲ塗抹シ而シテ濕布ヲ貼シテ繃帶ニテ腫張セシ粘液囊ヲ纏絡シテ



雇重ヲ與ヘ或ハ夾板ノ類ヲ貼シ患肢ヲ安静ナ  
ラシムルヲ良トス又「トロイカル」ニテ囊ヲ穿ツ  
ハ却テ害アリ之ヨリ化膿ヲ生シ而シテ永ク瘻  
管ヲ遺スコアリ

外科通論卷之八終

#1305202299  
1.8



東京第四大區四小區  
湯島五丁目十三番地

出版人

佐藤尚中

右同所

述人

佐藤進

發兌書林

馬喰町二丁目五番地

島村利助

